
里山に生息するニホンイシガメの展示 トキとの混合展示

野田英樹

923-1222 石川県能美市徳山町600 いしかわ動物園飼育展示課

Exhibition of Japanese pond turtles inhabited in Satoyama. Multi species exhibition with Japanese crested ibis.

By Hideki NODA

Ishikawa Zoo, 600, Tokusanmachi, Nomi, Ishikawa, 923-1222, Japan.

いしかわ動物園では、2016年よりトキ *Nipponia nippon* の展示施設「トキ里山館」において、里山に生息するトキを展示している(いしかわ動物園, 2016)。この施設は斜面を利用した約500m²のケージとなっており、周囲を回る観覧通路から、様々な角度からトキを観察することができるようになっている。ケージ内部には棚田を造成し、トキが田んぼに入りドジョウや水生昆虫などの小動物を探しながら採食する行動を見せられるようになっている(図1A)。現段階ではトキは他の鳥類との混合飼育が認められていないため、トキ1種のための展示となっているが、爬虫類に関しては鳥インフルエンザなどの重大な共通疾病がないことから、ニホンイシガメ *Mauremys japonica* をケージ内に放すことで混合展示を行なっている(図1B)。

野外のニホンイシガメはスカベンジャーとして死んだ魚や落下実を採食していることが知られている(矢部, 2002)。トキ里山館ではトキに対して生きたドジョウを給餌しているが、弱ったり死んだりしたドジョウは食べ残されることが多い。広大なケージ内で死んだドジョウを回収するのは困難であるため、ニホンイシガメをスカベンジャーとして働かせることで、景観と衛生の維持に努めるほか、その生態を来園者に展示することで、里山に生息するトキのみならず、ニホンイシガメという種についても学ぶことができるようになっている。

トキ里山館の公開に先立ち、2011年よりバックヤードでニホンイシガメの繁殖に取り組んだ。7個体のニホンイシガメを創設個体とし、2017年までに約50尾を繁殖させた。孵化直後はトキに捕食される可能性が

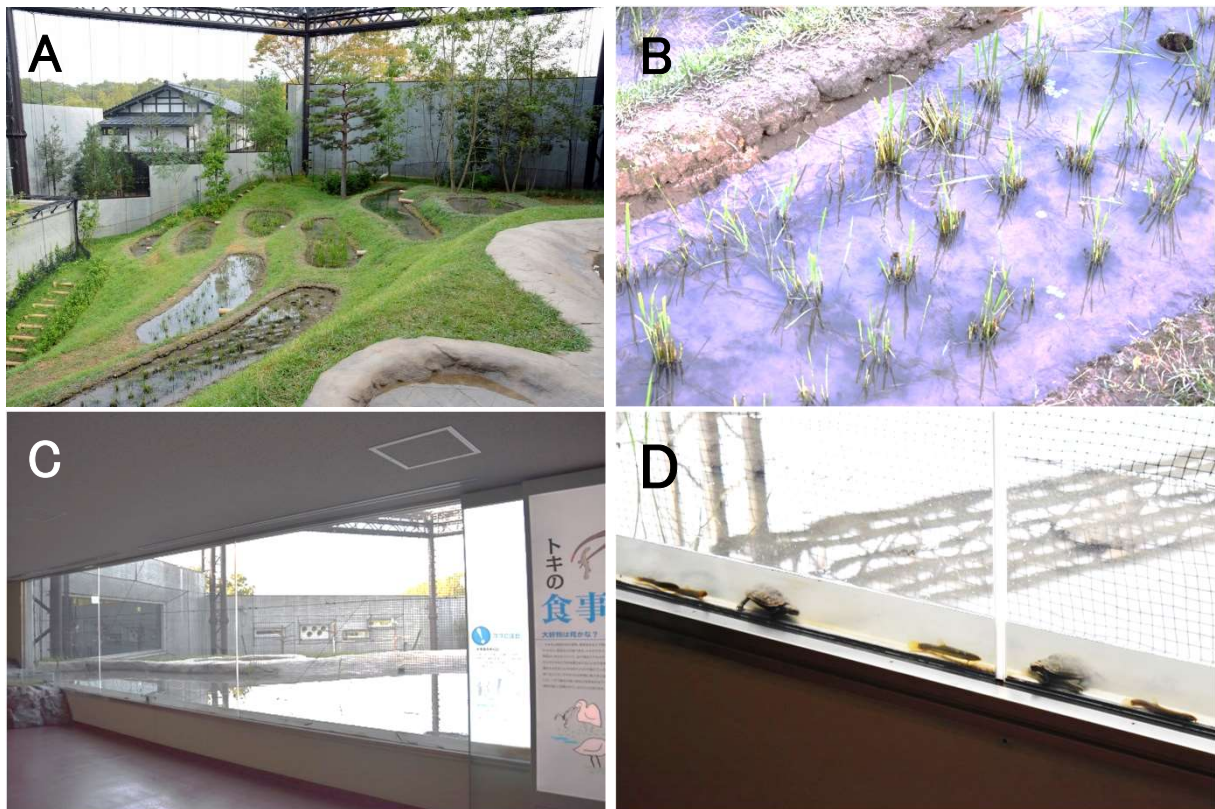


図1. いしかわ動物園内展示施設「トキ里山館」

(A: 施設内に造成された棚田, B: 施設内の田んぼで観察されるニホンイシガメ(写真中央付近), C: 施設内に造成されたトキ用の採餌池, D: 採餌池内で観察されるニホンイシガメやドジョウ)

高いためバックヤードで育成し、翌年の夏ごろにケージに放逐している。2018年にも20個体が繁殖したため、順次ケージに導入していく。なお、2017年よりケージ内で自然孵化個体を確認しており、トキによる捕食を防ぐため発見次第バックヤードに収容し育成している。

トキ里山館にはトキが泥の中のドジョウを視覚に頼らず触覚を頼りに捕食する様子をガラス越しに観察するための採餌池を設けてある(図1C)。暖かい季節にはこの池をニホンイシガメが利用することで、多くのお客様の目を楽しませることができている(図1D)。トキにあまり興味のないお客様でもカメの前では足を止め、解説員の話に聞き入る姿が見られることから、ニホンイシガメを同居させることでトキに対する展示効果も向上しているといえる。この施設はトキ専用と銘打っているため、大々的なニホンイシガメの解説を掲示していないが、日本の里山にニホンイシガメが生息していることを知らせるきっかけになっていると考えられる。

引用文献

いしかわ動物園. 2016. アニマルあいズVol17-4. 石川. 13p.

矢部隆. 2002. 里山のカメ類. p176-184. 広木詔三(編). 里山の生態学. 名古屋大学出版会, 愛知.